

## 令和4年度 学校評価結果報告書

桶川市立日出谷小学校  
校長 閑野 千鶴

## 1 目指す学校像 「ひかる瞳 でっかい夢 やりぬく力 が育つ日出谷小学校」

## 2 評価結果

領域	No.	評価項目	自己評価		学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	1	学校教育目標の達成に向けて、協働体制で取り組んでいる。	A	・前年度からの引継ぎがしっかりされ各主任が中心となり積極的な改善策を盛り込んだ計画が立案されている。校務支援PCとシステムが新しくなり、活用の推進が一層図られ、校内組織の連絡体制ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務用PCとシステムが新しくなり、担当の職員や苦手な職員の負担を軽減していくことも必要である。</li> <li>・放課後の留守番電話を設定することにより、教職員の負担も軽減されている。生徒指導等の重要な案件については、今後も保護者と緊密に連絡が取れるようにしておくことが重要である。</li> </ul>
	2	保護者や地域住民からの相談・問い合わせに組織的に対応している。	A	・保護者や来校者に丁寧に対応するように心がけている。また、電話や連絡帳等での問い合わせに対しては管理職への報告、連絡、相談が徹底されている。	
学習指導	3	児童が主体的に学ぶ授業づくりをしている。	A	・学校課題研究（学習指導）等の研修や、日々の授業改善を通して、教育の質的向上が図られ、全職員で児童の主体性を高めるための手立てを考えて実践している。学習活動を楽しむ児童が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、教職員がタブレット端末を使えるようになり、オンライン学習を効果的に進めている。</li> <li>・様々な児童に対して、また発達段階に応じてデジタルとアナログの活用のバランスや指導する教職員のバランス感覚も重要になってくる。</li> </ul>
	4	学ぶ喜びを味わえる授業づくりをし、基礎・基本の定着を図る工夫をしている。	A	・アナログとデジタルの両方を使い分けて、授業を進め、学力の向上に結び付けている。また、児童、教師ともに学習活動を振り返り、日々授業改善に取り組んでいる。	
生徒指導・教育相談	5	元気よくあいさつや返事ができている	B	・児童、保護者、教師で課題意識の差がみられる。教師が率先してあいさつをし、自分からあいさつができるように褒めて認める指導をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内を見学した際、児童はよくあいさつをしている。今後も継続した指導が必要。</li> <li>・保護者にとっていじめのない学校生活が最も重要なことである。いじめは最低なことであるという認識をもって学級づくりを行っていただきたい。</li> </ul>
	6	規律ある態度で生活している。	A	・廊下歩行や名札の着用など、課題はあるものの学校全体として落ち着いて学校生活を送っている。生徒指導委員会等で情報を共有し、全教職員で指導を統一していく。	

	7	いじめのないあたためかいクラスづくりがされ、支えあい励ましあう人間関係がつけられている。	A	・いじめ調査の結果を受け、いじめられた児童の立場に立ち、小さな案件も「いじめ」と認定し、学年・学級で迅速に対応し、解消の未届けをしている。すべての教育活動において全職員が一丸となり、いじめを絶対に許さないという風土が確実に醸成されている。	・学校生活において、児童同士のトラブルはつきものである。どのように対応していくのが大切であり、子供から目を離さないようにすること。そのためには子供への目配りが必要である。
健康教育	8	運動習慣の定着と体力の向上を図る取り組みがされている。	B	・教職員の自己評価からも他の項目より達成度が低い。感染症防止の観点を確認し、全教職員のアイデアと児童の主体性で、運動する機会を確保し、運動習慣を定着させていく。	・コロナが収まれば全校で一斉に取り組めるような運動の機会が増やしていけるとよい。
	9	安全管理(災害、事故、不審者等)や救急措置等の日常的な健康管理に努めている。	A	・毎月の安全点検や避難訓練等を確実に実施し、災害時に備えている。また、非常時の際の防災機器の取り扱いや救命措置等に関しては適宜、全教職員で確認を行っている。	
学習環境	10	教職員の机の上は常時整理整頓されている。	A	・教職員事故防止の観点から、教職員の机の上は常に整理整頓された状態になっている。管理職が定期的に指導している。 ・黒板が見えにくくなってしまうので、教室のタブレット保管庫の上には物を置かないようにする。	
	11	掲示板や学年園が計画的に活用されている。	B	・学校ファーム担当が中心となり、学校応援団と連携して、時季に合った充実した学年園になった。校内掲示板は使用計画を再検討し、各学年・学級の教育効果を高めていく必要がある。	
教職員の資質向上	12	教職員の指導力向上に計画的・組織的に取り組んでいる。	A	・学校課題研究では教職員が主体的に研修に参加し、個人のスキルアップを図っていた。また、働き方改革を継続し、時間を確保することで校務や教材研究を効率的に進められるようにしていく。	・働き方改革の視点では、教職員の勤務状況や休暇の取得状況が気になる。職員によって勤務時間に差があることが課題ある。
	13	教職員の服務規律の確保に努めている。	A	・倫理確立委員会や桶川市の組織力強化研修等を通じて、全教職員が教職員事故防止の意識を高く持っている。今年度についても、不祥事、教職員事故はゼロである。	
家庭・地域との連携	14	学校・学年だより、HP等で保護者や地域に積極的に情報提供を行っている。	A	・学校ホームページや学校メールを効果的に活用し、行事やPTA活動、学校応援団などの取組等を多くの写真とともに積極的な情報発信・情報提供をしている。	・学校ホームページがよく更新されている。新着情報ページ等見る人にとってわかりやすいレイアウトにして欲しい。 ・「学校だより」などは今後ペーパーレス化されると思うが、地域には紙媒体の回覧を希望している方が一定数いることを考え、判断する必要がある。
	15	地域の人材を積極的に教育活動に活用している。	A	・コロナ禍においても、学校応援団や保護者、地域の方々の協力を得て、体験的な学習の実施や学習環境の整備を行うことができた。今後の継続が課題である。	

